



7月17日は「北海道みんなの日」

～ 北海道の価値を見つめ直し、これからの北海道を考える日 ～



1869年（明治2年）、北海道の名付け親とされる松浦武四郎が、明治政府に「北加伊道（ほっかいどう）」という名称を提案した7月17日は、「北海道みんなの日」、愛称「道みんなの日」です。

北海道の魅力と価値を再発見し、北海道を誇りに思う心を育み、より豊かな北海道を築き上げることを期する日として平成29年に制定しました。

この日をきっかけに、道民の皆さんには北海道に愛着や誇りを持っていただき、北海道の魅力を発信する機会としていただければ幸いです。

●詳細 北海道環境生活部道民生活課道民生活係
☎011-204-5211

★市長だより★

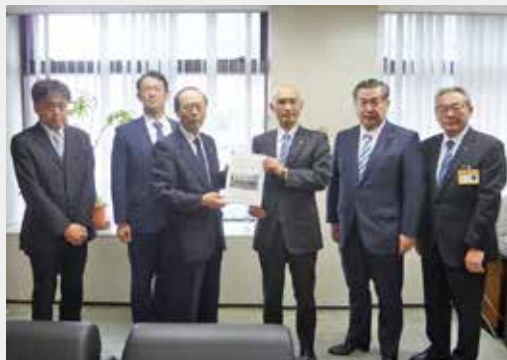
81



芦別高校の今年度の入学者数は26人にとどまり、第1学年では1学級となる。来年度以降の募集間口が1間口となること懸念されるため、「芦別市高校問題協議会」での協議を踏まえ、今後も普通科2間口の安定的な維持・確保に向け、去る5月27日、北海道教育委員会教育長に対し、北村市議会議長、荒当道議会議員、芦別高校校長、市教委教育長とともに要請活動を行ってまいりました。

要望の内容は、芦別高校が本市のまちづくりにとってかけがえのない高校であり、中学生の進学ニーズに確実に応えていくうえでも普通科2間口を維持することが不可欠なことから、9月に予定される公立高等学校配置計画の策定には、これまでと同様に、普通科2間口による募集とされるよう強く訴え、道教育長からは、①今回の入学者は異常値（少なさ）であり、今年に限った極端な結果と捉えている②芦別高校は、芦別市や赤平市の生徒や地域住民の負託に十分応えていく高校であり、今後も地域として必要な高校である③要望内容を道教委として真摯に受け止め、9月に確定する令和7年度以降の高校配置計画の策定に取り組んでいきたいなどのコメントがあったところです。

このため、市としても、引き続き芦



5月27日、北海道教育委員会倉本教育長（写真右から3人目）へ、芦別高校の間口確保の要望を行ってまいりました。

別高校と連携を深め、これまでのさまざまな行政支援等を含め必要な対応や取り組みなどを講じ、芦別高校のさらなる魅力向上に努めてまいります。「芦別警察署」については、先般、市に対し、北海道警察本部より、道内の警察署の機能強化に向けた再編整備計画として、令和8年4月から芦別署を滝川署に統合し、職員数の削減と分庁舎（分署）化する内容の説明がありました。本市は広大な行政面積を有し、国道2路線、道道11路線等があり、道内の主要都市を結ぶ地点に立地し、交通量も多く交通安全体制の確立が欠かせない状況にあるほか、地域の治安対策として、近年頻発するクマ等の出没による人畜被害等への懸念や、特殊詐欺や不審者による高齢者や子ども等への犯

罪抑止力の低下など、市民、地域にとって安全安心な地域社会の形成に大きな不安を与えかねず、また、人口の流失にも拍車がかかるだけに、芦別署（本署）の存続を強く要望していく必要があることから、市においては、同署の存続に向け、北海道警察本部長等に対し、オール芦別での要請活動につなげていくための署名活動を実施することとしておりますので、市民皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

市ではこれまで国有林において、分収造林制度（契約に基づき造林者の市が国有林に木を植えて、一定期間育て、成林後に立木を売却し、その収益を市と国とで予め契約で決めた割合で分収する制度）を活用した森林整備等を継続して行い、森林の多面的機能の維持・増進等に努めているところでありますが、このことに対し、この度北海道森林管理局長から、重厚な木製の感謝状の贈呈を受けることとなり、大変光栄に思うとともに、今後も同制度を活用し、森林の適切な整備とあわせ、市有財産の確保に向け、取り組みを推進してまいります。

本格的な夏の到来からも、市民皆様には熱中症等暑さ対策には十分ご留意をいただき、ご健勝でお過ごしください。（6月20日記）

芦別市長 萩原 貢